

〔 横浜市陶芸センター 〕

平成 3 0 年度業務報告及び収支決算

〔 シンリュウ株式会社 〕

* 文中の事業欄において、 ●：主催事業 ○：共催事業
* 文中の達成指標、達成状況欄において、 □：定量的指標 ■：定性的指標

1 施設の概要

施 設 名	横浜市陶芸センター
所 在 地	横浜市中区本牧三之谷 5 9 - 3
構造・規模	木造平屋建て及び登り窯 1 棟(別棟)
敷地・延床面積	延床面積 396 m ² 、 登り窯延床面積 6 0 m ²
開 館 日	平成 5 年 8 月

2 指定管理者

法 人 名	シンリュウ 株式会社
所 在 地	埼玉県朝霞市上内間木 5 1 4 - 2
代 表 者	小澤 忠
設立年月日	平成 2 年 4 月 2 6 日
指 定 期 間	平成 2 8 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 3 1 日

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

【指定管理中の使命】

横浜市陶芸センターの使命は、横浜市における作陶活動の拠点施設として、広く市民が陶芸に親しむ機会を提供するとともに、市民の作陶技術向上の支援を行うことにより、陶芸の普及を図ることであり加えて、陶芸を通じて市民文化の振興及び文化芸術が持つ創造性を活かした魅力あるまちづくりに寄与することです。この使命を達成するため、以下五つの方針のもと運営を行いました。

①陶芸の普及と市民の作陶技術向上を支援する。

1 日体験教室、季節のやきもの教室、親子陶芸教室、手びねり教室、電動ロクロ教室、自由作陶教室を開講し、陶芸の普及と市民の作陶技術向上を支援する取組を進めました。

②市民の主体的な作陶活動を支援する。

電動ロクロ水挽き徹底教室、絵付け教室、チャレンジ教室、招待作家講座、三溪園共催楽焼講座、還元焼成講座、大物焼成講座を開講し、市民の主体的な作陶活動を支援しました。

③市内の公益的作陶活動を支援する。

陶芸指導者研修講座、随時開催される団体教室を開講し、市民の公益的作陶活動を支援するよう努めました。

④陶芸と市民とを結びつける場とする。

陶芸と市民を結びつける場として、陶芸祭での手びねり・楽焼絵付け体験、電動ロクロ体験、陶芸センター利用者の作陶作品展の開催、SNSや各種メディアを活用した情報の発信に努めました。

⑤施設の管理及び市民の円滑な施設利用の促進。

陶芸センターでの陶芸用小道具の無料貸出しや、作陶環境の改善、注文小道具の迅速な引渡し、欠席日振替制への対応など利用促進に努めました。

【業務取組みの基本的な考え方】

①利用者へのサービスを、もっと向上する。

施設利用者からのアンケートや要望、各スタッフからの提言などを考慮しながら利用者がより使いやすい作陶環境づくりに取り組みました。

②陶芸知識の基地化を、もっと推進する。

陶芸ライブラリーには毎年新図書を追加補充し、利用者、来館者を問わず利用できる貸し出し制度を引き続き整備しました。また、新企画講座により施設利用者、スタッフが陶芸技法の知識を共有できる様、陶芸知識・技法の共有と伝達拡散に努めました。

③地域にもっと開放する。

陶芸祭での町内商店会・三溪園・横浜市緑の協会との共催企画や、開館時間中の見学者への説明、電話やホームページからの陶芸に関する質問・相談に対応し、開かれた陶芸施設作りを推進しました。

④環境をもっと意識する。

本牧市民公園の中に位置し、三溪園が隣接する静かな環境の中での作陶活動をより多くの人に紹介するために、陶芸センター周辺的环境映像をSNSホームページにアップし、新規利用者の拡大と興味の喚起につながるように努めました。

(2) 30年度の業務の方針及び達成目標の総括

【全体業務について】

指定管理第3期3年目の事業運営は若年層と新規受講者を中心に、ホームページやSNSでの興味を喚起するため、カラフルな色の練り込み磁土を使用したアクセサリ講座や、動物の置物を製作する講座、伝統的な6種類の釉薬や2種類の土を使用した一日体験講座などを企画しました。毎年開講される講座にも新たな技法をとり入れ、磁器土の泥漿鑄込み講座では初めて作品に磁器土の取手を取り付ける専門的な技術体験をする講座が組まれました。招待作家による縄文土器の制作でも初めて野焼体験を開講しました。数年前から開催が望まれていた、三溪園との共催企画講座「楽茶碗を作る、焼く、蓮華院茶室で御点前」と一日染付け講座、磁土練り込みアクセサリ講座、石膏型泥漿鑄込み講座は人気の講座となりました。隔年で開催される「全国公募・横浜アマチュア陶芸展」も入選作品の4日間の展示や、ネット特別賞の発表など話題性のある企画の年となりました。そして例年の課題である作陶環境と収納スペース拡張問題は自由作陶教室と講座教室の吊下

げ電源配線の改修工事、講座教室コンクリート床の段差の解消、釉掛けスペースのスリム化、粘土倉庫天井部分への収納棚の取り付け、亀板専用収納棚 2 箇所設置など少しずつ改善することができました。

① 事業について

- ・体験型、基礎型、自主型、専門技能型、公益的作陶支援型の各教室について、受講者からの感想や担当スタッフからの意見を取り入れ、釉薬が流れ落ちないための釉掛け技法や、呉須が爆ぜないための下絵具の濃度、結晶釉が安定して焼きあがるよう焼成プログラムの変更など、講座前にテストピースでの焼成試験を繰り返し、講座の質の向上を図り受講率を高めました。高度な技法をテーマに開講しているチャレンジ講座は5日間の日程で開催し、製作時間にゆとりをもたせた講座に変更しました。また、今年度の招待作家講座では陶芸家の伊福部玲氏を迎え、縄文土器を古代の制作方法で再現し、神奈川県七沢森林公園で野焼焼成を体験しました。「2018・横浜陶芸フェスティバル」は4日間で1,740人の入場者があり「全国公募・横浜アマチュア陶芸展」展示会、陶芸センター利用者の発表展示会、共催企画の本牧市民公園「秋まつり」は地域恒例のイベントとして近隣地域及び全国に情報を発信することが出来ました。

②運営の総括

- ・年末年始休館、定期点検日、蛍光灯安定器調査で年間10日間の休館となり、年間355日間開館し利用促進に努めました。
- ・貸室及び自主事業の利用者数は、今年度目標である16,947人は達成できませんでしたが、合わせて16,074人で、前年比（15,475人）104%増となり、例年の年間利用者数に近づいてきました。また、作陶スペース等の改善はスタッフと施設利用者からの提案や要望を参考に改良しました。釉掛け場作品計量機のスリム化により通路スペースを拡張し、粘土販売スペースは事務室一箇所に集約し利用者とスタッフの負担を軽減し、旧粘土保管場所には新たに作品等の収納スペースを設け作陶環境の改善が出来ました。

② 管理の総括

- ・修繕が必要と思われる設備・備品や危険と思われる箇所を日常の見回り点検により洗い出し高額修繕に備えました。陶芸センター利用者の大多数はご高齢の方が半数以上のため、通路上の僅かな段差でも転倒の危険性があり、講座教室コンクリート床の段差の解消や電動クロ電源の床外露出配線を吊下げ式コンセント配線に改造する工事で段差を解消し安全性を確保しました。また、新たに安全監視カメラを4台導入、建物入口と西側に人感センサー照明を設置し日没後の利用者の足元の安全にも配慮しました。夏場の猛暑による体調不良防止のため、受付カウンターに無料の塩飴や冷蔵庫にイオン飲料を常備し事故に備えました。また、窯業設備等の毎月の機能点検により劣化した電気炉ヒーター線の早めの補修をし、交換時期を迎えたヒーター線は自前修繕により経費削減に努めました。陶芸センター建物及び登り窯周辺は周りの公園環境を意識し、屋根の松葉清掃や雑草の処理など環境美化に努め、センターから排出される汚泥を年2回排出して汚泥量調査を実施、適切な汚泥管理、環境維持に努めました。

④その他の総括

- ・日報、月報、業務計画書、業務報告書の作成・管理するとともに自己評価を行い、業務改善につなげました。法令の遵守、個人情報保護、情報公開について、適切に対応するとともに横浜市との連絡調整を蜜にし、円滑に業務を遂行しました。

4 業務の取組と達成状況

(1) 事業について

ア 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①体験型教室の開催	①□一日体験手びねり、絵付け教室を年 10 日間開催する。 目標利用者数 120 人 □一日電動ロクロ体験教室を年間 10 日間開催する。目標利用者数 130 人 □季節の焼き物講座を年 3 回開催する。目標利用者数 40 人 □一日伝統古典釉薬体験講座を年 9 回開催する。 目標利用者数 90 人 □親子陶芸教室を年間 10 日間開催する。目標利用者数 350 人 □陶芸祭期間中手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の教室を 4 日間開催する。目標利用者数 140 人 ○□三溪園との共催講座を年 1 回開催。 目標利用者数 40 人 □手びねり初級教室を年間 2 回、14 日間開催する。 目標利用者数 290 人 □手びねり中級教室を年間 2 回、14 日間開催する。 目標利用者数 300 人 □電動ロクロ初級教室を年間 2 回、14 日間開催する。 目標利用者数 230 人 □電動ロクロ中級教室を年間 2 回、14 日間開催する。 目標利用者数 200 人	①■一日体験の手びねり絵付け体験講座を実施 ■一日体験電動ロクロ講座を実施 ■季節の焼物講座を実施 □伝統釉薬 6 種、粘土 2 種を使用する作品を制作 ■親子陶芸教室の実施 ■陶芸祭期間中の陶芸体験の実施。 ■楽焼茶碗を制作し三溪園茶室でお茶の御点前 ■手びねり初級教室を実施 ■手びねり中級教室を実施 ■電動ロクロ初級教室の実施 ■電動ロクロ中級教室の実施	①●■一日体験教室の開催 □手びねり 10 回(178 人) □電動ロクロ 10 回 (96 人) ●■季節の焼き物講座 □開催回数 3 日間 □利用者数 29 人 ●■伝統古典釉薬講座 □開催回数 9 日間 □利用者数 95 人 ●親子陶芸教室の開催 □開催回数 10 日間 □利用者数 325 人 ●陶芸祭期間中に体験教室を 3 講座開催 □開催回数 4 回 4 日 □利用者数 70 人 ○共催企画の実施 1 回 □利用者数 47 人 ●手びねり初級教室開催 □開催回数 2 回 14 日 □利用者数 233 人 ●手びねり中級教室開催 □開催回数 2 回 14 日 □利用者数 244 人 ●電動ロクロ初級教室の開催 □開催回数 2 回 14 日 □利用者数 186 人 ●電動ロクロ中級教室の開催 □開催回数 2 回 14 日
②基礎教室の開催			

③自律型教室の開催	☐ 自由作陶教室を年間 350 日開催。目標利用者数 7,000 人	☒ 自由作陶教室を開講、PCB 検査の為 2/7 休館	☐ 利用者数 158 人 ☒ 自由作陶教室の開催 ☐ 開催日数 349 日 ☐ 利用者数 7,393 人 ☒ 第 2 自由作陶教室開催 ☐ 開催日数 48 日 ☐ 利用者数 1,100 人 ☒ 伝統釉薬講座開催 ☐ 開催日数 9 日間 ☐ 利用者数 95 人 ☐ 陶芸祭期間中に 4 日間 3 講座を開催（ア①再掲） ☐ 新聞折込 8 万部（親子陶芸教室） 4 万部（陶芸祭） ☐ 一日体験英語版は年 3 回更新、貸室・自由作陶教室は年 1 回更新 ☐ 吊下げ配線コンセント工事 4 箇所と釉掛け場受付機の移動交換 1 件 ☐ 一日体験講座待ち時間での動画の放映 32 回 ☐ 夏休み親子陶芸教室参加者に 200 部発布
	☐ 第 2 自由作陶教室を年間 48 日開催。目標利用者数 1,200 人		
④気軽に陶芸を体験してもらう取組	☐ 伝統釉薬を使用する一日体験講座を年 9 回開催 目標利用者数 90 人 ☐ 陶芸祭で事前予約なしの体験の場の提供 ☐ 各種媒体を使用した広報	☒ 伝統釉薬一日体験講座の開催。（ア①再掲） ☒ 陶芸祭期間中、電動ロクロ、手びねり、楽焼を開催 ☒ 新聞折込チラシとフェイスブック、ホームページへの掲載 ☒ 一日体験、貸室、自由作陶教室等、陶芸祭作品展、英語版案内チラシを掲示 ☒ 自由作陶教室・講座教室床コンセント配線の改修、釉掛け場受付機の交換 ☒ DVDでの陶芸技法、陶芸祭、作家と作品等の映像 ☒ 実施『陶器と磁器の違いって何？』を発布	
	☐ 外国人の方向けの広報 ☐ 障害のある方等、誰もが使いやすい作陶環境改善の検討。 ☐ 映像による案内		
⑤次世代育成の取組	☐ 低学年を対象とした陶芸解説資料の発布		

イ 市民の主体的な作陶活動の支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
●専門技能習得講座としての多くのテーマの講座を企画・実施 ・電動ロクロ水挽き徹底講座	□専門技能習得講座として多くのテーマの講座を企画・実施 □電動ロクロ水挽き徹底講座を年 3 回、12 日間開催	■実施	●電動ロクロ水挽き徹底講座

・上絵付け教室 ・一日上絵（金彩）教室 ・チャレンジ講座 ・還元焼成講座 ・大物焼成講座 ・楽焼焼成講座、サヤ鉢焼成講座等 ・招待作家講座 ・穴窯焼成講座 ・一日染付け講座 ●作陶活動の成果発表の場の提供 ●新講座・実験的講座の開講	目標利用者数 100 人 □絵付け講座を年 2 回 6 日間開催。目標利用者数 70 人 □一日上絵金彩教室を 1 日開催 目標利用者数 16 人 □チャレンジ講座を年 4 回 20 日間開催。 目標利用者数 200 人 □還元焼成講座を随時開催 目標利用者数 貸室 300 人 自由作陶教室 600 人 □大物焼成講座を年 12 回開催 目標利用者数 24 人 □楽焼・サヤ鉢焼成講座を年 1 回開催 □招待作家講座を年 1 回開催 目標利用者数 24 人 □穴窯焼成講座を隔年で開催 □一日染付け講座を年 1 回開催 目標利用者数 12 人 □陶芸祭での作陶展、ホームページで実施するネット特別賞による全国規模の作品発表の場の提供 ■伝統古典釉薬を使用する一日体験講座を年 9 日開講 □目標利用者数 90 人 ■チャレンジ講座 ○楽茶碗でお茶の御点前	■九谷和絵具での上絵付け講座を実施 ■3 日間講座の作品に金彩や 上絵上級技法に挑戦する ■磁土泥漿鑄込み、土鍋、練り込み磁器土のアクセサリー、動物の置物講座を実施 ■貸室・自由作陶教室利用者を対象に随時開催 ■貸室・自由作陶教室利用者を対象に毎月 2 名が大物制作 ■楽焼は陶芸祭と三溪園共催講座、サヤ鉢焼成は一日染付け講座で実施 ■五百城窯 伊福部玲氏 縄文土器 野焼講座 ■焼締めと赤土作品の炭化 ■磁器の素地に染付けし還元炎でサヤ鉢焼成 ■「全国公募・アマチュア陶芸展」入賞者とセンター利用者の作品展示。ネット特別賞の選定。陶芸誌での掲載発表 ■黄瀬戸、辰砂、青磁、織部備前焼締、油滴天目、唐津焼を開催 ■陶土で動物の置物を製作しアクリルガッシュで彩色 ■センターで楽茶碗を制	□開催回数年 3 回 12 日間 □利用者数 114 人 ●絵付け教室の開催 □開催回数年 2 回 6 日間 □利用者数 57 人 ●一日上絵金彩の開催 □開催回数年 1 回 □利用者数 5 人 ●チャレンジ講座 □年 4 回 20 日開催 □利用者数 201 人 ●還元焼成講座受講者 □貸室 298 人 □自由作陶教室 429 人 ●大物焼成講座 □年 12 回 □利用者数 24 人 ●楽焼・サヤ鉢焼成講座 □楽焼利用者 75 人 □サヤ鉢焼成 12 人 ●招待作家講座 □受講者 12 人 ●R 元年度に開催予定 ●一日染付け講座 □利用者数 12 人 ●利用者発表の場 □作陶展出品者 83 人 対前年比 126% (昨年度 66 人) ●伝統古典釉薬講座 □年 9 回 □利用者数 95 人（再掲） ●チャレンジ動物の置物講座 □開催回数 1 回 5 日間 □利用者数 9 人（再掲） ○三溪園共催講座 □開催回数年 1 回
---	--	---	---

●講師アドバイザーの 推奨するチャレンジ講座の開講	●チャレンジ講座のなかにスタッフが推奨する技法講座を開講 ■チャレンジ講座 磁器土で作るアクセサリーと四ッ編ネックレスの編み方。	作、 楽焼体験（窯入れ・引き出し） 三溪園蓮華院茶室で御点前 ■石膏型による泥漿鑄込技法による取手付のカップを製作 ■磁器土に練込顔料・色化粧で装飾したアクセサリーを四ッ編技法によるペンダントネックレスに取り付けて完成。	□利用者数 47 人（再掲） ●磁器泥漿鑄込講座を開催 □開催回数 1 回 5 日間 □利用者数 73 人（再掲） ●磁器土アクセサリー講座開催 □開催回数 1 回 5 日間 □利用者数 90 人（再掲）
------------------------------	--	--	--

ウ 市内の公益的作陶活動に対する支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①陶芸指導者対象の研修講座の開催	①●□小中高校や支援学校など陶芸担当指導者のための研修講座を年 1 回開講する。 □目標利用者数 13 人	①□実施	①●指導者研修講座の開催 □開催回数 1 回 1 日 □利用者数 22 人
②公益的作陶活動に対する情報提供等や相談対応等、陶芸知識の発信による基地化	②●■小中高校・特別支援学校、福祉施設等に指導者研修講座の案内の他、作陶活動に必要な情報や質問を聞き取り、研修や電話相談等での陶芸知識の発信に努める。 □学童保育を中心に年 1 回 DM を発送し、団体教室の案内の他陶芸センター紹介の情報を提供 氏、陶芸活動の底辺拡大を図る ■作陶活動を行っている団体、個人からの陶芸に関する相談及び出張教室の要望がある場合には積極的に対応し、陶芸知識や活動の拠点化に努める	②■横浜市内小学校陶芸サークルより電気炉プログラムコントロールについての相談に対応。 ■学童保育に対し団体教室の案内 DM を発送しました。 ■県内在住の陶芸家から陶芸素材について、福島県田村町在住陶芸家からは灯油バーナー電磁ポンプについての相談等に対応しました。	②□電気炉焼成装置取扱について 2 件 □DM 218 通発送 □窯業機械処分 1 件 □灯油窯電磁ポンプ 1 件 □陶芸材料・素材 2 件 □急須の鑑定依頼 1 件 □電気炉焼成装置 2 件 □出張教室相談 0 件
③出張教室・講座等の対応など陶芸知識の発信による基地化	③■出張教室での相談への対応 □団体教室を年 10 件以上実施する。目標利用者数 360 人	③■出張教室の相談はありませんでした。 ■学童クラブなど手びねりの団体教室を実施	●団体教室の開催 □開催回数 10 回

			□利用者数 179 人
--	--	--	-------------

エ 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくりについて

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①施設の象徴としての登り窯の活用	①■登り窯を柵外からのみの見学用施設として活用し、構造や使用方法の解説文など引き続き掲示 ■登り窯を施設の象徴的扱いとし、印刷物等で施設紹介する際には、登り窯の写真も掲載。	①■登り窯の構造断面図を掲示 ■今年度も引き続きホームページ上に登り窯の映像をセンター案内動画で紹介。	①■登り窯の構造断面図を掲示し、より多くの来場者が登り窯を見学しました。 □掲載動画再生回数 講座案内 1331 回 陶磁器の出来るまで 1865 回
②近隣地域と連携した取組をおこなうための企画検討	③ ■毎年開催される陶芸祭に本牧市民公園・三溪園・近隣地域商店会の出展など、陶芸際、陶芸センターを周知するための企画を検討する。	②■期間中の三溪園入場割引協定と本牧市民公園陶器市バザーブースへの出展。地域商店会の出展。近隣町内会への陶芸祭折込チラシの発布	②□陶芸センターへの来場者数 4 日間 1740 人
③陶芸祭で初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施	④ □陶芸祭での予約なしで参加できる「手びねり・電動クロ・下絵付け・楽焼」体験の他、アンケート記入によって参加できる抽選会、作品を利用した企画（お茶の御点前・バザー）など興味を喚起する企画を検討。	③■予約なしの陶芸体験教室と利用者による作陶展を開催、箸置き他、お茶券等をアンケート回答者の景品として提供し、手づくり抹茶茶碗でのお茶会と利用者による作品バザー、「アマチュア陶芸展」入選作品展示会を開催しました。	③●陶芸祭関連講座（ア①再掲） □開催回数各講座 4 回 □陶芸体験者 70 人 □お茶会利用者 208 人 □陶芸祭来場者数 4 日間 1740 人
④施設利用促進のための広報活動・宣伝活動、ホームページや紙媒体の製作の充実	④□SNSを利用した作陶講座等の情報を月 2 回発信する。 ■全ての講座について募集チラシを作成、館内にて発布する。 □陶芸祭チラシを年 1 回作成し、新聞折込広告、DMなどで活用する。 ■市の刊行物、フリーペーパー、一般紙誌、新聞イベント情報、陶芸誌などへの情報提供、記事掲載を推進する。	④■実施。 ■実施 ■実施 ■実施	④□月 2～4 回のフェイスブックによる講座作品等の発信。 ■すべての講座・貸室募集チラシを作成と館内掲示。 □陶芸祭のチラシを新聞折込みで 4 万部発布 ■広報よこはま・神奈川新聞・情報誌「ぼど」に「横浜陶芸フェスティバル」の情報を提供。入

⑤一般見学者への質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページをつづじての相談等の情報発信	□ホームページの年度更新の他、新着情報を月 1 回以上更新する。 ⑤■利用者に配慮しながら一般見学者の団体も受け入れ、陶芸に関する質問に積極的に対応し、映像・陶芸ライブラリーによる情報の発信を行う。 ■電話や、お問い合わせホームで陶芸全般に関する質問に答え対応する。	■実施 ■茨城県笠間市陶芸施設、保土ヶ谷区福祉施設、都内工芸ギャラリーからの見学及び視察。市内インターナショナルスクール、横須賀市福祉センター陶芸サークルの団体見学。 ■神奈川県内個人陶芸家より窯業機械の廃棄手順の相談 アマチュア陶芸展作品の素材について問い合わせ。電気炉焼成装置と灯油窯電磁ポンプについての質問、古い急須の鑑定依頼など広範囲の問い合わせに対応しました。	選作品を陶芸専門誌「陶釉」誌上で発表。 □新着情報 ホームページの年度切替えと月 2 回以上の更新 □一般見学 1,068 人 □団体見学 6 件 39 名 □陶芸ライブラリー 貸出利用者数 62 名 83 冊 ■図書の補充 新書 9 冊、図書は、貸出利用だけでなく、作陶活動の参考にする為、施設内で利用者に閲覧されています。 □1 日平均閲覧者数 5 名 ■陶芸に関しての相談（ウ②再掲） □電気炉取扱方法 2 件 □灯油窯電磁ポンプ 1 件 □窯業機械廃棄 1 件 □陶芸材料関係 2 件 □古い急須の鑑定 1 件
---	--	--	--

オ 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①Web サイトによる施設案内	①■ホームページ以外にヨコハマアートナビ・横浜カレンダーなどのWebサイトに講座スケジュールを載せてもらうほか、陶芸関係サイトにリンクを積極的に貼れるよう調整。 ■ホームページ上のギャラリーを充実させ、陶芸祭人気作品、招待作家講座の画像をアップする。	①■実施 ■実施	①□フェイスブックによるフォロワー数 96 人 □ヨコハマアートナビ □陶芸ネットコム 陶芸広場 シンリュウホームページ □アマチュア陶芸展入選作品のアップと招待作家講座、陶芸祭の動画をDVD化し、センター内で放映。
②陶芸関係サイ	②■陶芸ネットコムなどの関連	②■実施	②□無料 web サイト

ト等を活用した広報	サイトのほか、無料の全国規模の習い事サイトなどにも情報を提供する。		アソビューweb 4トラベルJP じゃらんnet 3件
③陶芸センターの知名度アップ	③■毎年開催される陶芸祭、隔年開催の『全国公募横浜アマチュア陶芸展』を通して近隣地区・全国に向けて知名度を上げる。 ■メディアの取材・撮影には積極的に対応する。	③■実施 ■実施 ■三溪園内案内看板に陶芸センター表示シールを掲示。 ■実施	③□「全国公募・横浜アマチュア陶芸展」を4日間開催。陶芸専門全国誌「陶釉」に入選作品を掲載。 □AU・Google web CM ロケ撮影に講座教室、陶芸材料、陶芸指導協力。 □園内4箇所に掲示。 □1 日体験英語版は3ヶ月ごとに更新、貸室・自由作陶教室・陶芸祭一日体験英語版は年1回作成。 □自由作陶教室受講 15人 □貸室 7人 □水挽き徹底 2人 □一日体験 47人 □団体 1件(内5人)
④外国の方向けの情報発信方法の検討	④■日本に在留されていて、作陶を希望される外国の方のために、1日体験や他の講座受付の英語版のチラシや、パンフレットをセンター内に常設する。 ■作陶経験のある外国人を対象に、英語で受講できる自由作陶教室があることをお知らせする。		

(2) 施設運営について

ア 作陶活動のための施設の提供について

[取組内容] ①適切な施設開館及び施設の貸出 ②公園条例に基づいた利用料金の徴収	[達成指標] ①□開館について <table><tr><td>開館日数</td><td>356 日</td></tr><tr><td>開館時間</td><td>9 時～17 時</td></tr></table> □休館日：清掃・空調機点検 2 日、電気点検 1 日、年末年始 6 日 ■開館時間、休館日については、館内掲示やホームページ等で周知を図る。 ②□利用料金について <table><tr><td></td><td>午 前</td><td>午 後</td><td>一日</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	開館日数	356 日	開館時間	9 時～17 時		午 前	午 後	一日					[実施内容] ①□355 日間開館しました。 PCB 検査で 1 日休館 定期清掃・空調機点検、電機点検で 3 日間、年末年始 6 日間 ■実施 ②計画通り実行し、適切な料金設定と徴収を行いました。	[達成状況] ①□開館日数 355 日 □休館日 10 日 ■館内掲示やホームページで周知 ②□貸室利用料金 午前 午後各 5 0 0 円 一日 1 0 0 0 円
開館日数	356 日														
開館時間	9 時～17 時														
	午 前	午 後	一日												

③各種講座・新規利用者・貸室の利用率増加のための工夫	<table><tr><td>陶芸成形室</td><td>500円</td><td>500円</td><td>1000円</td></tr></table>	陶芸成形室	500円	500円	1000円		<table><tr><td>□酸化焼成料</td></tr><tr><td>100gごとに100円</td></tr></table>	□酸化焼成料	100gごとに100円
	陶芸成形室	500円	500円	1000円					
	□酸化焼成料								
100gごとに100円									
③■新規利用者及び長期利用者が初めて体験する講座からステップアップして次の講座へ興味を持って進めるようにアンケートや直接の聞き取りなど、次回講座の企画に役立てる。	③□伝統古典釉薬を使用する一日体験講座を開催。 □泥漿鑄込み講座、色化粧練り込み粘土・4ッ編み技法によるアクセサリ講座をそれぞれ開催。 ○□三溪園との共催『楽茶碗をつくる、楽茶碗で点てる』を1日開催。 □一日染付け体験講座を1日開催。	③□伝統古典釉薬講座 9日間開催 □泥漿鑄込み講座 5日間開催 □色化粧練り込み講座 5日間開催 □三溪園共催講座 作陶1日、楽焼2日 御点前1日開催 □一日染付け講座 1日開催							
□貸室での欠席振替を利用期間内（12回）に消化する事により利用率を上げる。 □目標利用者数：5400人 稼働率 100%	■欠席予定日をできるだけ事前連絡してもらいスムーズな振替を実施。 □陶芸祭4日間、陶芸祭準備の為2日間通常稼働なし。	■貸室での届出欠席振替を1年間実施。 □利用料状況等について（稼働率は、日にち単位） ・貸室 利用日数 349日 開館日数 349日 稼働率 100% 延利用者数 5,312人							

イ 利用者ニーズの把握及び利用者さ-尾部の向上、アイディアノウハウの一層の活用

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①アンケートを活用した利用者サービスと利用促進	①■すべての講座の利用者に対しアンケートを実施し、満足度及び利用者ニーズ等を把握し、今後の運営に反映させる。	①■新釉薬茶そば釉の導入 ■亀板専用棚設置 ■コンクリート床の段差解消 ■熱中症対策用スポット	①□1日体験にも使用 □講座教室・自由作陶教室2箇所 □中央講座教室1箇所 □窯場、講座教室移動式

②利用者への配慮をしながら可能な限りの施設見学の受け入れ ③施設スペースの有効利用方法等の検討	■自主事業講座アンケート集計 ②■利用者に支障のないよう一般見学者の団体も受け入れる。 ■穴窯焼成講座(隔年)など離れた場所での団体見学の受け入れ ③■講座教室・建物内のレイアウト変更に伴う作陶スペースの拡張 ■釉薬掛けスペースの改善 ■不良在庫等の廃棄による保管スペースの確保。	クーラーの設置 ■実施 ②■実施 ■H30 年度は招待作家講座「縄文土器野焼き講座」で実施 ③■実施 ■電気配線のつまづき防止工事 ■釉薬掛け計量機の交換 ■実施	1 台 □すべての講座についてのアンケート調査実施 (回収数 519 通) ・教室内容満足度 90% (満足 81%やや満足 9%) ・建物設備満足度 88% (満足 74%やや満足 14%) ・スタッフ満足度 95% (満足 89%やや満足 6%) ②□団体見学 6 団体 39 名 (再掲載) □一般見学者 1,068 名 □縄文土器野焼き体験見学者 20 名 ③■倉庫天井収納空間増設 ■自由作陶教室吊下げコンセント 4 箇所取付工事。 ■亀板保管棚の改造 2 点 ■大机から中机への交換 ■劣化釉薬バケツの廃棄
---	--	---	---

ウ 組織的な施設運営について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]									
①適切な運営組織体制と人材の配置（毎日2名以上の勤務体制）	①□人材の配置について <table><tr><th>項目</th><th>人数</th><th>備考</th></tr><tr><td>センター長</td><td>1人</td><td>全体総括</td></tr><tr><td>所長</td><td>1人</td><td>事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務</td></tr></table>	項目	人数	備考	センター長	1人	全体総括	所長	1人	事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務	① □講師1名、事務員1名減のため、勤務ローテーションを組み立てなおし事業に支障なく施設運営を行いました。	① □講師1名業務委託契約終了、事務員1名退職により講師9人から8人に変更、事務員3人から2人に変更
項目	人数	備考										
センター長	1人	全体総括										
所長	1人	事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務										

	副所長	1人	一部講師・貸室アドバイザー兼務		
	事務員	3人	ローテーション勤務		
	講師	9人	ローテーション勤務		
	貸室アドバイザー、助手	6人 2人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務		
②適切かつ効果的な勤務体制の確立	②□勤務体制について センター長は月3日その他随時必要時、所長は週3～4日出勤。各講座指導部門では、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務とし、講座運営に支障のないようにする。事務部門では、毎日2人以上のローテーション勤務体制とする。 ■職務分担表の作成、徹底により、効率的な業務遂行を行う。			② □副所長は週5日（内週1日はアドバイザー、講座担当は年8日間勤務） □一週間ごとの焼成スケジュール、一ヶ月ごとの勤務スケジュールの作成	②■職務分担に沿って、適切な職務遂行を達成しました。 ■実施

エ 個人情報保護等、本市の重要政策を踏まえた取組

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	①■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取り扱いを適正に行い、事故のないように努める。 ■マイナンバーの個人情報漏えい防止の為、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる ■横浜市の障害者差別解消法の指針に従い差別解消を推進する。	①■計画通り、法令の遵守と個人情報保護への取り組みを行いました。 ■マイナンバーを本社総務部での一括管理により、安全管理処置を講じました。 ■障害者差別解消法の研修を実施しました。	①■実施 個人情報の保管 施錠管理、研修 パスワードでの情報管理 ■実施 マイナンバーマニュアルの研修 本社での施錠管理 □年1回実施 □対応案件 0件

	■情報公開規程にのっとり、情報開示請求等に対し、適切に対応する。 ■人権の尊重について、職員に対し人権に関する研修を年1回実施する。 ■近隣対策の実行について、管理・運営上の近隣への迷惑行為には充分留意し、対策を講じる。 ■横浜市中心小企業振興基本条例に基づき、物品、修繕などの優先発注に努める。	■情報開示請求等はありませんでした。 ■人権研修を実施しました。 ■近隣への配慮を行い、適宜、本牧市民公園との連絡調整を行いました。 ■可能な物品、修繕案件については、優先発注に努めました。	□年1回実施 ■実施 ■実施
--	--	---	-------------------------------------

(3) 施設管理について

ア 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	①□毎日の清掃業務と年2回の定期清掃を行う。 ■管理標準チェックリストによる記録と快適環境維持 ■施設設備の日常点検と早めの自前小破修繕による高額修繕費支出の回避。	①実施 ■実施 ■スタッフによる施設設備等の異常箇所の報告と毎日の見回り点検。	①□休館日を除く毎日清掃と年2回の定期清掃の実施 ■毎日の管理標準チェックリストの記録 □電気炉ヒーター線修繕 3件 □コンプレッサー圧力調整弁の修理 1件
②保守点検、備品管理、環境維持の実施	②□空調機器定期点検を年2回行う。 ■給排水設備点検を随時行う。 ■電気設備点検を随時行う。 □消防設備点検を年2回行う。 □窯業機器・機械の機能点検を毎月、保守点検を年1回行う。	②■実施 ■水道栓ノブの交換と排水枡・排水溝の泥の排出 ■実施 ■非常警報設備と消火設備、非難経路表示表の点検 ■実施	②□空調機定期点検年2回 □排水枡からの泥の排出 年2回 □既存コンセントとスイッチの点検 2回 □非常警報設備の点検 年2回 □毎月の陶芸窯機能点検と年1回の定期保守点検の実施

③公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整	■粘土や釉薬を直接下水に流さず、下洗い箱を設け一度沈殿させたうえ、上水だけを流すよう毎日の作業として徹底する。 □排水溝、桝の掃除を年2回実施し、汚泥量を記録するとともに、適切に汚泥処理をする。	■実施	■毎日の実施
	③■建物周辺の美観維持の為、草刈、屋根の松葉清掃等、適時手入れをする。 ■本牧市民公園と工事・修繕他による車両の出入りの連絡調整をする。	■実施 ③■実施	□年2回の排水溝・排水桝の清掃と処理 □年11回実施
		■ゴミ・古紙・産廃のルート回収・自動販売機飲料の入替・電気・空調機点検・定期清掃車両等の公園内通行許可証の発行	■実施

イ 小破修繕の着実な実行について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①小破修繕の取組	①■毎日見回り点検により、早めの直営修繕に取り掛かり、高額修繕に至らない様、適切な維持管理にを行う。 ■修繕用交換部品をメーカーより直接購入し直営修繕による工賃・修理費のコスト削減を図る ■早めの小破修繕による高額修繕費の回避	①□コンクリート床の段差 □水道栓の交換修理 □灯油バーナー分解修理 □電気炉ヒーター線補修 □水道栓の交換修理 ■ヒーター線、水道交換部品 電動クロコ交換部品、監視カメラ、耐圧ホース 防犯センサーライト ■水道栓コマ・ノブ交換 アルミ門扉、ヒーター線他	①□直営修繕 年間 41 件 □部品取寄せ直営修繕 年間 19 件 □修繕実施案件 5 件

ウ 事故予防及び緊急時の対応

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①事故防止体制・防犯・緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	①□事故発生に備え緊急連絡網を整備し、横浜市へ現場対応・状況を報告する。AED の操作研修を年2回行う。	①■緊急連絡網の整備 □AED研修年 2 回 □転倒事故 2 件 □児童体調不良 1 件 □アシナガバチ駆除 1 件	■緊急対応マニュアルに従って対応し、横浜市へ現場対応・状況を報告しました。

	■陶芸センターの警備業務一覧 (巡回警備・非常事態発生時の処置等)をスタッフ全員での共通業務として認識し行動する。 ■日常の見回り点検や、スタッフ、利用者からの危険箇所の指摘を事故防止体制に活かす。 ■感染症対策として液体消毒石鹸とアルコール設置による除菌対策をし、ノロウイルス対策として嘔吐物処理行程をマニュアル化しスタッフ全員で共有する。 ■デング熱・ジカ熱の蚊対策として水溜りの除去や、野鳥の死骸発見時における保健所と横浜市への通報・連絡を徹底する。 ■施設の保安警備業務は警備会社に委託し、24 時間警備を行う。	■実施 ■監視カメラの増設 ■実施 ■実施 ■実施	■実施 □館内4ヶ所に監視カメラを増設、人感センサーライトを2ヶ所に設置。 ■実施 ■実施 ■委託警備業者による24時間機械警備の実施
--	---	--	--

エ 防災に対する取組

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	①■防災に備え緊急連絡網を常備し、緊急時は横浜市へ現場対応・状況を報告する。 □スタッフ、利用者も含めた防災避難訓練を年2回実施する。 ■陶芸窯の焼成について、スタッフの安全教育、防火管理を徹底する。 □防災用品を準備、備蓄し期限切れ食品等を年2回更新する。	①計画通り、防災等への適切な対応ができました。避難訓練では、利用者の方にも協力してもらい、利用者、スタッフ全員参加で行い、AEDの取り扱い説明会も行われました。 ■陶芸窯のマニュアルと窯周辺の可燃物に対する注意の喚起。 □飲料水と固形糖類を2回更新 □防寒用保温剤の追加備蓄	①□避難訓練を年2回実施(6月、2月) ■本牧市民公園での救急救命訓練への参加(9月) ■防災マニュアル、緊急連絡網の確認、徹底 ■陶芸窯焼成の安全マニュアル教育、防火管理の徹底、1年間無事故達成 ■緊急防災持出袋設置 ■飲料水、固形食品の更新年2回 ■防災用品と救急用品の追加 年1回

オ その他管理に関する事項

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①廃棄物の抑制と適正な処理	①■使用済み粘土、削りかす粘土、使用済釉薬は、出来るだけ再利用するため、分別回収は子に保管し、適切に管理する。 ■再生を基本とし、廃棄物を最小限に抑える努力し、再生できないものは、ルート回収にて適正に廃棄する。	①■実施 ■実施	①■粘土釉薬の再生のため分別回収を毎日徹底 ■産業廃棄物の毎月管理ルート回収による適正な廃棄

(4) 収支について

ア適切な収支構造及び収支バランス

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
適切な収支構造及び収支バランス	①■収益の改善と固定経費の改善努力 ■陶芸材料の在庫管理と計画仕入れの努力 ■突発的な大規模修繕を未然に防ぐ為の日常点検による劣化箇所の把握。 ■利用増加が見込まれる新規講座の企画 ■四半期表による収支の予測	①■陶芸用小道具の一部値上げ ■実施 ■実施 ■参加が見込まれる講座 ■鑄込み型講座 ■磁器土アクセサリー講座 ○三溪園共催楽茶碗 ■1日染付け講座 ■実施	①■カタログ外取寄せ商品の値上げ ■毎月の計画仕入と在庫管理の徹底 ■実施 □ 各講座利用率 チャレンジ 鑄込み 73% チャレンジ アクセサリー 75% 楽茶碗共催 98% 染付け講座 100% 年4回

イ 指定管理料のみに依存しない収支構造の検討について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	①■自主事業の受講者を効率的に獲得し受講率を高めることにより、事業収入の増収を図る。 ■新規講座を企画検討し、利用料増収を図る。	①■アンケート調査や意見・要望から講座や、材料その他の設備の改良を行いました。 ■実施（再掲（4）ア）	①■新釉薬の導入 ■新講座の開講 ■新釉薬導入に向けてのアンケート調査 ■収入の見込める新講座 楽茶碗共催講座 1件 チャレンジ講座 2件

	■ 陶芸センター独自グッズの開発、販売に向けて、実現の可能性を探る。	■ 海外からの観光客に向けて、陶磁器お土産グッズ、アクセサリーの試作制作	1 日染付け講座 1 件 ■ 陶磁器お土産グッズ、サンプル・試作品の制作 アクセサリー組立体験・英語対応テキスト試作
--	---	---	---

ウ 経費削減及び効率的運営努力について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
① 経費削減等効果的運営の取組	① ■ 消耗品、事務用品の節約による事務経費の削減に努める。利用者からの寄贈による古新聞・古布等を再利用する。 ■ 陶芸材料の輸送コスト削減の為、販売元から直接引き取り搬入し、輸送コストの削減を図る。 ■ 液化燃料（灯油）は直接購入し配送料のコスト削減を図る。 ■ 教室運営にかかわる補助的作業や修繕について、出来る範囲のものは職員の自前作業により、経費抑制を図る。	① ■ 計画通り経費削減に努めました。 ■ 陶芸材料とメンテナンス用部品を直接仕入れ経費を削減しました。 ■ 液化燃料を配達から直接買い入れることによる経費の削減。 ■ 職員の自前修繕により経費抑制を図りました。	① □ 事業費実績 16,061 千円（対予算比 85%） □ 事務費実績 5,075 千円（対予算比 77%） ■ 実施 □ 年間 104,000 円の削減 ■ 実施

（５）PDCAサイクルの確実な運用

ア 日報及び月間事業報告書の作成・管理について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
① 日報、月間事業報告書の作成と管理	① ■ 日報、月報を作成・管理する。 ■ 日常業務の中でPDCAサイクルを推進することにより、短いサイクルでの早い対応ができるよう、努力する。	① ■ 計画通り、日報、月報の作成と管理を行い、PDCAサイクルの推進により素早い対応をこころがけました。	① ■ 日報、月報の作成官理 ■ センター利用者のアンケートの集計による対応。

イ 業務計画及び業務報告書の作成・管理について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
① 業務計画書、業務	① ■ 業務計画書及び業務報告書	① ■ 計画通り、業務計画書、	① ■ 業務計画書、業務報告

報告書の作成と管理	について、定められた様式に沿って作成、管理を行う。	業務報告書、の作成と管理を行いました。	書の作成と管理
-----------	---------------------------	---------------------	---------

ウー１ 業務評価（モニタリングの実施）について

〔取組内容〕	〔達成指標〕	〔実施内容〕	〔達成状況〕
①モニタリングの実施による業務評価	①■モニタリングにおいて、利用状況、施設管理状況、問い合わせ・苦情等、毎月の管理運営状況	① ■計画通り、モニタリングの実施による業務評価を行いました。	①■利用状況、施設管理状況問い合わせ・苦情等、毎月の管理運営状況を報告

ウー２ 業務評価（自己評価の実施）について

〔取組内容〕	〔達成指標〕	〔実施内容〕	〔達成状況〕
①自己評価の実施による業務評価	①■業務実績及び利用者の満足度や意見を基に、自己評価を行い、以降の業務改善につながるよう努める。	①■計画通り、自己評価の実施による業務評価を行いました。	①■業務実績及び利用者の満足度や意見を基に、自己評価を実施。

ウー３ 業務評価（第三者による評価の実施）について

〔取組内容〕	〔達成指標〕	〔実施内容〕	〔達成状況〕
①第三者評価の実施による業務評価	①■業務評価にあたり、外部評価委員会による第三者評価が実施される場合は、横浜市の指示に従い対応する。	①■30年度は実施されませんでした。	

（６）その他について

ア保険及び損害賠償の取り扱いについて

〔取組内容〕	〔達成指標〕	〔実施内容〕	〔達成状況〕
①保険の加入と損害賠償への対応	①■賠償責任保険、動産総合保険、レジャー・サービス費用保険に加入し、契約書および保険証書の写しを市に提出する。	①■計画通り、保険の加入により損害賠償への備えを整えました。	①■賠償責任保険、動産総合保険、レジャー・サービス費用保険に加入。

イ 関係法令の遵守

〔取組内容〕	〔達成指標〕	〔実施内容〕	〔達成状況〕
①法令の遵守と個人情報保護への	①■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱を適正	①■計画通り、法令の遵守と個人情報保護への取組	①■法令、条例及び規則の遵守、利用者の個人情報の適

取組	に行い、事故のないように努める。	を行いました。	正な取扱。
②マイナンバー制度への取組	②■マイナンバーの個人情報漏えい防止の為、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる。	②■本社総務課で一括管理	②■本社でのパスワードによる管理

ウ 市及び関係機関等との連絡調整

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①市及び関係機関との連絡調整	①■月次モニタリングにて業務の報告、確認を行うが、重要な案件、緊急な案件については、随時市に報告・協議し、円滑な業務遂行を目指す。	①■計画通り、市及び関係機関との連絡調整を行いました。	①■月次モニタリングでの業務の報告、確認の他、随時市に報告、協議し、円滑な業務遂行

エ その他

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①情報公開への積極的取組	①■情報公開規程にのっとり、情報開示請求等に対し、適切に対応する。 ■業務計画書、業務報告書をはじめ、施設運営情報等をホームページで公開していく。	① ■実施 ■横浜市と陶芸センターのサイトで実施	①□開示請求は0件 ■業務計画書・報告書は横浜市のサイトで公開、施設運営情報は陶芸センターホームページで公開

平成30年度 「横浜市陶芸センター」 収支予算書及び報告書

収入の部 (税込、単位：円)

科目		当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
	指定管理料	18,636,000		18,636,000	18,636,000	0	横浜市より
	利用料金収入	4,200,000		4,200,000	4,276,650	△ 76,650	貸室利用料・貸室焼成費
	自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0		0	
	自主事業収入	18,750,000	1,590,000	20,340,000	19,325,580	1,014,420	自主事業講座料・自主事業焼成費、教室・貸室粘土代
	雑入	650,000	0	650,000	1,034,403	△ 384,403	
	印刷代	6,000	△ 2,000	4,000	5,540	△ 1,540	コピー代金
	自動販売機手数料	147,000	△ 11,000	136,000	126,344	9,656	自動販売機手数料
	駐車場利用料収入			0	0	0	
	その他	497,000	13,000	510,000	902,519	△ 392,519	陶芸祭売上・作品出品料・受取利息・陶芸材料売上・ルート回集古紙収入(未収入分)
収入合計		42,236,000	1,590,000	43,826,000	43,272,633	553,367	

科目		当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費		11,820,000	1,400,000	13,220,000	14,415,468	△ 1,195,468	
	給与・賃金	10,170,000	1,400,000	11,570,000	12,591,440	△ 1,021,440	社員2名・嘱託社員1名・パート3名・
	社会保険料	930,000		930,000	1,222,856	△ 292,856	社会保険・雇用保険
	通勤手当	700,000		700,000	422,520	277,480	通勤費
	健康診断費・福利厚生	20,000		20,000	178,652	△ 158,652	健康診断費(協会健保)
	勤労者福祉共済掛金	0		0		0	
	退職給付引当金繰入額	0		0		0	
事務費		3,614,640	50,000	3,664,640	3,489,518	175,122	
	旅費	30,000		30,000	19,783	10,217	交通費
	消耗品費	200,000		200,000	205,054	△ 5,054	ガムテープ・紙やすり・ラミネートフィルム・ポリ袋・レジロール・鉛筆・ファクス用紙他・
	会議賄い費	50,000		50,000	51,350	△ 1,350	全体会議賄費他
	印刷製本費	861,000	△ 1,000	860,000	874,103	△ 14,103	講座パンフレット・チラシ・案内ハガキ・広告宣伝費
	通信費	500,000		500,000	417,464	82,536	電話料金・メール便・郵便料金・切手・ハガキ代金・DM送料
	使用料及び賃借料	500,000	330	500,330	376,044	124,286	
	横浜市への支払分	100,000	70,000	170,000	160,044	9,956	ゴミゼロルート回収費・目的外使用料(自動販売機・小道具ショーケース)
	その他	400,000	△ 69,670	330,330	216,000	114,330	駐車場契約料・雑費
	備品購入費	500,000		500,000	726,980	△ 226,980	監視カメラ・人感センサー照明・LED照明・スポットクーラー
	図書購入費	70,000		70,000	47,000	23,000	陶芸ライブラリー用陶芸図書購入費・DVD
	施設賠償責任保険	13,640	670	14,310	58,704	△ 44,394	施設管理者賠償責任保健・動産総合保険・レジャーサービス費用保健
	職員等研修費	20,000		20,000	7,108	12,892	各種法令テキスト代・陶芸教材用テキスト代
	振込手数料	50,000	50,000	100,000	85,234	14,766	銀行支払い・振り込み手数料
	リース料	600,000		600,000	359,334	240,666	電動ロクロ・小型電機窯・コピー機・印刷機リース料
	手数料	220,000		220,000	261,360	△ 41,360	ホームページ・ドメイン管理・サーバー使用料・会計ソフトサポート料
	地域協力費	0		0	0	0	
事業費		18,750,000	0	18,750,000	16,061,440	2,688,560	
	自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	0		0		0	
	自主事業費	18,750,000		18,750,000	16,061,440	2,688,560	陶芸材料仕入れ・講師・アドバイザー・助手委託契約料及び交通費
管理費		5,051,110	140,000	5,191,110	6,082,058	△ 890,948	
	光熱水費	1,980,000	100,000	2,080,000	1,772,114	307,886	
	電気料金	1,100,000	100,000	1,200,000	1,122,696	77,304	三相・200V、単相・100V電気料金
	ガス料金・灯油料金	380,000		380,000	249,400	130,600	プロパンガス・灯油窯用灯油代金
	水道料金	500,000		500,000	400,018	99,982	上下水道料金
	清掃費	2,150,000	△ 50,000	2,100,000	2,098,450	1,550	日常清掃(毎日)・定期清掃(年2回)
	修繕費	200,000	△ 20,000	180,000	585,372	△ 405,372	蛍光灯・水道トイレ漏水・電気配線他
	機械警備費	390,000		390,000	1,055,808	△ 665,808	開館時以外常時機械警備(365日)
	設備保全費	331,110	110,000	441,110	570,314	△ 129,204	
	空調衛生設備保守	210,000		210,000	203,472	6,528	定期保守点検(年2回)・室内送風機洗浄他
	消防設備保守	10,000	77,000	87,000	86,400	600	消防設備点検(年2回)
	電気設備保守	102,600	40,000	142,600	263,520	△ 120,920	電気炉・灯油窯他保守点検(年1回)電気設備取付・保守
	害虫駆除清掃保守	2,000	△ 490	1,510	9,877	△ 8,367	スズメ蜂・蚊用殺虫剤・蚊取り線香
	駐車場設備保全費	0		0	0	0	
	その他保全費	6,510	△ 6,510	0	7,045	△ 7,045	松葉清掃及び排水汚泥収納廃棄用袋
	共益費	0		0		0	
公租公課		2,500,250	0	2,500,250	1,243,308	1,256,942	
	事業所税	0		0		0	
	消費税	2,500,000		2,500,000	1,243,300	1,256,700	消費税
	印紙税			0		0	
	その他（ ）	250		250	8	242	受取利息からの納税分(国税)
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）		500,000	0	500,000	341,947	158,053	
	本部分	90,000		90,000	90,000	0	本社労務管理費等
	当該施設分	410,000		410,000	251,947	158,053	陶芸祭用各種備品他・事務用品費 103373 596381
二一ズ対応費				0		0	
支出合計		42,236,000	1,590,000	43,826,000	41,633,739	2,192,261	
差引		0	0	0	1,638,894	△ 1,638,894	

自主事業費収入				19,325,580		
自主事業費支出				16,061,440		
自主事業収支	0			3,264,140		
管理許可・目的外使用許可収入				1,028,863		陶芸用小道具売上・自動販売機売上手数料
管理許可・目的外使用許可支出				160,044		陶芸材料支払い分・賃借料・ゴミゼロルート回収費
管理許可・目的外使用許可収支				868,819		